

「小貝川水害から25年 ～語り継ごう小貝川の歴史～」シンポジウムを開催しました

昭和61年8月(台風10号)により、茨城県内の小貝川がはん濫し大きな被害が発生してから25年が経ちました。また、今年3.11東日本大震災や台風12, 15号など全国各地で大きな災害により被災しています。国土交通省関東地方整備局下館河川事務所では、当時の状況を振り返り、この経験を風化させることなく後世に語り継ぐとともに、日頃の防災意識を高めることを目的とした事務所職員手作りのシンポジウムを平成23年12月4日(日)に開催しました。

当日は、復旧時に事務所長でおられた福田昌史(現高知工科大学理事)の基調講演、また、はん濫の被害を経験した住民の方、先頭に立って住民救助や復旧に当たっていた筑西市・下妻市・常総市の消防団長らによるパネルディスカッションを行いました。約200人の参加者からは「体験者の生の声を聞いて被害の大変さがわかった、復旧の苦勞が理解できた、様々な機会を通じて語り継いで行かなければならない」などのご意見をいただきました。



下館中学校吹奏楽部の演奏



基調講演



閉会の辞
 小貝川水害から25年
 ～語り継ごう小貝川の歴史～
 閉会の辞
 次 第
 演奏(和太鼓こゆき)
 基調講演(福田昌史)
 主催者挨拶
 演奏(下館中学校吹奏楽部)
 閉会の辞



パネルディスカッション



和太鼓こゆきの演奏

当時の水害写真を見る地元の方々



水害写真・パネル展示・小貝川洪水のビデオ放映

体験コーナー

屋外で同時に行われた体験コーナーには、親子連れをはじめたくさんの地元中学生など約100人の参加があり、自然災害体験車や、地震体験車、降雨体験車などに乗り、災害の再現などを体験していました。水防活動の際に使われる、土のう作りや色々な紐結びの方法も楽しそうに体験されていました。災害の恐ろしさを感じ災害に備える心構えを常日頃から持っていただけるきっかけになったことと思います。

自然災害体験車



立体映像(3D)や音、振動などで、土石流・火砕流の恐ろしさを体験しました。



土のう作り体験



水防活動に使われる土のう作りを体験しました

ひも結び体験



水防活動に使われるさまざまな紐の結び方を体験しました

地震体験車



過去の大地震を再現、地震の揺れを体験しました。

降雨体験車



大災害につながる暴風雨の恐ろしさや、スクリーンによる映像や雷の音・光など体験しました。